

多職種連携による入退院支援

持参薬管理室の役割

JA長野厚生連

佐久総合病院佐久医療センター

薬剤部 宮下貴浩

佐久病院グループ 病院

みなさまの健康を
守り続ける総合病院
佐久総合病院（本院）



309床

専門医療と救急の紹介型病院
佐久医療センター



450床

南佐久の健康な暮らしのために
小海分院



99床

当院の「持参薬管理室」設置の きっかけは・・・

- 2007年4月に当院の前身となる分割前の佐久総合病院に「入退院支援室」が開設（開設時の名称は「術前検査センター」）
- 入院前、術前の常用薬把握の重要性を認識
- DPCの導入（→持参薬の有効利用の促進）、GEの普及（→先発名と結び付かない）などと重なり「薬剤師による持参薬の確認」に対するニーズが上昇
- これらを受け、まず分割（再構築）前の佐久総合病院に「持参薬管理室」を設置（但し設置場所は薬局のお薬窓口付近の空きスペースだった）
 - ⇒この時の経験が活かされ、佐久医療センターには開設時から患者サポートセンター内に「持参薬管理室」が設置されている。

病院の分割による再構築

- 機能分化の必要性（高度急性期に特化する⇔しない）
 - 当院だけでは地域の医療を担いきれない
（全国と比較しても広い長野県の4分の1が医療圏）
- +
- 現地（現本院）の建物の一部がまだ使用できる
 - 移転に関する住民の反対運動

↓

完全移転の再構築ではなく

高度急性期機能を分離した新しい病院を作り

元の病院にも一般急性期・回復期等の病院機能は残して継続する

→佐久医療センター

→本院

再構築を進める話し合いの中で

PFM !

病院の都合で患者さんを動かすのではなく、そこに行けば多くのことが対応できる職場・職種を横断した機能を持つ部門を設置する



入退院支援室と総合案内、地域医療連携室、医療福祉相談室、患者相談窓口、医事課などを1ヶ所に集約



患者サポートセンター（入退院支援室を含む）を設置
そこには持参薬管理室を配置することも決定

患者サポートセンターの基本方針

基本方針

多職種連携による質の高いチーム医療を実践し、安心して治療を受けることができ、患者中心の医療サービス・支援の提供を行う。

顔の見える多職種連携



専門職がその専門性を担いながらチームとして連携を持ち安全・安心を提供していく。



再構築で薬剤部は

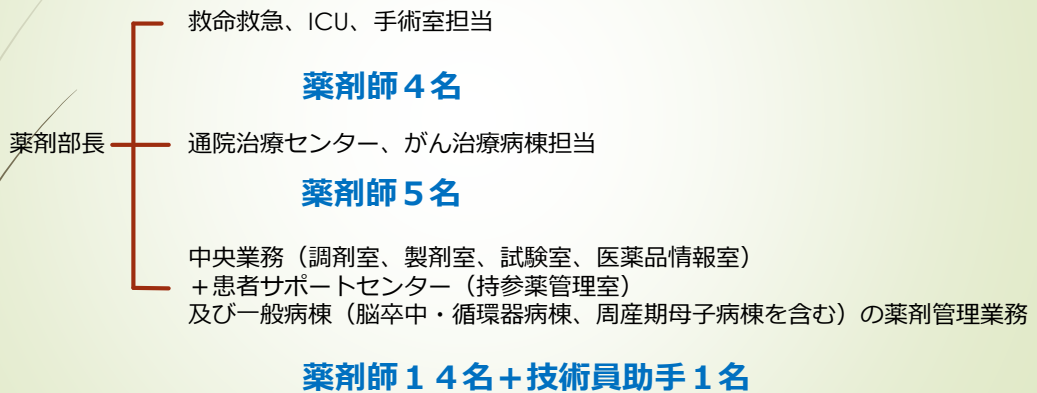
- 100%院外処方を前提に検討が行われたので、ワンフロアであれば必ずしも1階の患者さんの動線上にあることにこだわらなかった
- その結果、佐久医療センターの薬剤部の基本機能は地下1階に集中
- 入退院支援室の中に持参薬管理室を設置し、そこに薬剤師が常駐し（サテライト薬局）持参薬の確認を行う
- 外来で生じる臨時の薬剤指導などは持参薬管理室で対応する

佐久病院グループ 病床と薬剤師数

	本院	医療センター	小海分院
病床	309床	450床	99床
薬剤師	18名 (うち4月入職 6名)	24名	4名

(2019年4月1日現在)

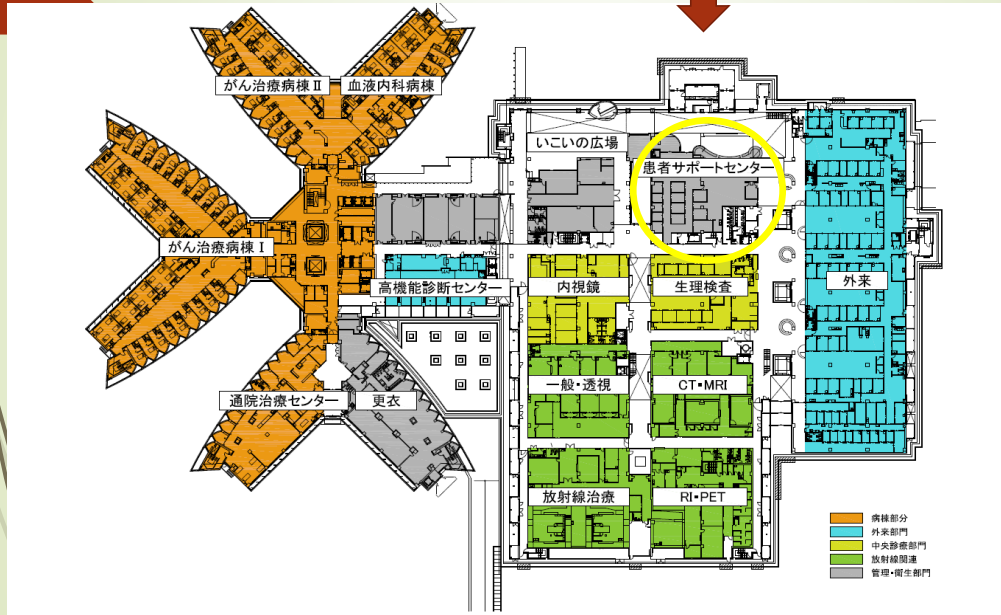
佐久医療センターの薬剤師の配置



持参薬管理室

当院の1階平面図

正面玄関



患者サポートセンターの図面と職員配置



佐久医療センター持参薬管理室の業務体制

- 外来診療日に準ずる
- 常駐薬剤師は1名（中央業務担当薬剤師のうち6名でローテーション）
- 午前、午後で交代。状況に応じてバックアップ（実際には出来ていないが・・・）

佐久医療センター持参薬管理室の業務内容

- 常用薬と薬学的管理情報の収集（持参薬確認）
- 院内処方を受け渡し
- 各種服薬指導（院内処方に関連する指導、術前薬物療法の説明）
- 禁忌薬剤の電子カルテへの登録及びデータベース化（DI室との連携）
- 周術期管理シートの作成への関わり
- （本年4月より）処方麻薬に関する薬剤指導

佐久医療センター持参薬管理室の業務実績

- 持参薬確認 → 623件/月、1日平均30件前後
- 院内処方を受け渡し→144件/月、1日平均7件前後
- 薬剤指導→8件/月、3診療日に1件程度
- 電子カルテへの禁忌薬剤登録→1日1～2件
- 周術期管理シートの作成への関わり→月平均300件の手術のうち200件前後の手術に関わり

持参薬確認

持参薬管理室の主たる業務

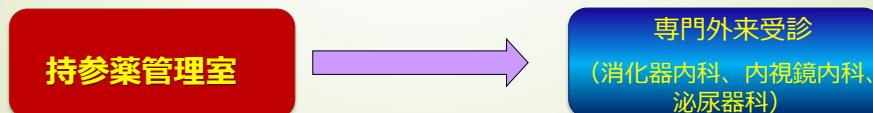
持参薬確認の流れ

<入院・手術決定日>



<紹介外来（消化器内科、内視鏡内科、泌尿器科）>

治療に向け早期の常用薬情報を診察に生かすため専門外来診察前によっていただく（場合によっては内視鏡検査前）。



持参薬確認（常用薬と薬学的管理情報の収集）

- お薬手帳、薬剤情報提供書、診療情報提供書などから薬剤情報を確認する。不明の場合はかかりつけ薬局、医療施設に電話、FAXで確認する。
- 副作用歴、アレルギー歴の聴取
- 市販薬（OTC）、健康食品服用聴取
- かかりつけ医、かかりつけ薬局の確認
- その他調剤上の工夫（一包化や粉碎など）や他スタッフに伝達すべき事項があれば記載

患者情報 患者氏名: 山田 太郎

患者番号: 999999999 入院日: 2012年1月2日(99歳9ヶ月)

鑑別薬剤一覧 鑑別作成日: 2012/10/17 作成状況: 作成済み オージ登録状況: 未登録

行	商品名	検	チェック薬剤	用量	用法	日数/回数	経路	院外区分	開始日	終了日	薬剤名
1	バイアスピリン錠 100mg	●	抗凝剤・抗血小板薬	1錠	1日 1回 朝食後	14 日	14 回	院内/院外共通	2012/10/17		

電子カルテの持参薬鑑別システムにて鑑別情報の作成

5	ロキソニン錠 60mg	●	NSAID(非ステロイド系抗炎症薬)	1錠	痛時に服用	10 回	10 回	院内のみ	2012/10/17	あり	
6	セルベックスカプセル 50mg	●		1CP	痛時に服用	10 回	10 回	院内/院外共通	2012/10/17	あり	
7	ゾロンシロキシル 0.05mg/mL	●	ジギタリス製剤(TDM対象)	0.5 mL	1日 1回 朝食後	14 日	7 回	院内のみ	2012/10/17	あり	
8	ラニタドン錠 0.05mg	●	ジギタリス製剤(TDM対象)	0.5 錠	1日 1回 朝食後	14 日	7 回	院内のみ	2012/10/17	あり	
9	テオロン錠 200mg	●	テオフィリン製剤(TDM対象)	2錠	1日2回 朝食後	14 日	28 回	院内/院外共通	2012/10/17	あり	
10	ゾルピデム塩酸塩錠 10mg/5N	●		1錠	1日 1回 寝る前	14 日	14 回	院内のみ	2012/10/17		
11	アルメル錠 10mg(血圧)	●		1錠	1日 1回 朝食後	14 日	14 回	院内のみ	2012/10/17		
12	アミナール錠 3mg(糖尿病)	●	糖尿病薬(SU剤、インスリン、その他)	2錠	1日2回 朝食後	14 日	28 回	院内のみ	2012/10/17	あり	

持参薬情報

患者番号: 999999999 入院日: 2012年06月15日 作成日: 2012年06月15日

患者氏名: 山田 太郎 病棟名: 内科

写真	商品名	検	チェック薬剤	用量	用法	日数/回数	経路	院内/院外	代替薬
1	バイアスピリン錠 100mg	●	抗凝剤・抗血小板薬	1錠	1日 1回 朝食後	14 日	14 回	院内/院外	代替薬
2	セルベックスカプセル 50mg	●	糖尿病薬(ヒグザン)	3錠	1日3回 朝食後	14 日	42 回	院内/院外	代替薬
3	ゾロンシロキシル 0.05mg/mL	●	抗凝剤・抗血小板薬	0.5 mL	1日 1回 朝食後	14 日	7 回	院内/院外	代替薬
4	テオロン錠 200mg	●	テオフィリン製剤(TDM対象)	2錠	1日2回 朝食後	14 日	28 回	院内/院外	代替薬
5	ロキソニン錠 60mg	●	NSAID(非ステロイド系抗炎症薬)	1錠	痛時に服用	10 回	10 回	院内/院外	代替薬
6	セルベックスカプセル 50mg	●	糖尿病薬(ヒグザン)	1CP	痛時に服用	10 回	10 回	院内/院外	代替薬

患者基本状況

持参薬鑑別報告書 2/2

患者番号: 999999999 入院日: 2012年06月15日
患者氏名: 約家の 人 作成者: 畠山 祐美子

【薬剤管理指導シート】

手術・検査予定日: 2012/02/20

入院目的 (検査・手術)	心臓バイパス手術 (MIDCAB)	かかりつけ (薬局)	佐久薬業局
入院時診断名	糖尿病 高血圧 心疾患 高脂血症 骨粗しょう症	指導対象	本人
アレルギー歴	ラテックス (+) キウイフルーツで痒くなる。 。経アレルギーでアナフィラキシー (+)。	OTC薬・市販薬等	目薬 (数れ目)
副作用歴	有り ペニシリン系抗生薬で薬疹 (+)	健康食品等	各種777の グルコサミン
入院前 服薬管理	有り	嗜好品等	喫煙 (20 本/日) 飲酒 (2 合/日)
調剤上の工夫	完全分包	伝達事項	
かかりつけ (医療機関)	佐久総合病院 循環器外科		

アレルギーの確認

かかりつけ薬局

副作用歴の確認

かかりつけ医

市販薬、健康食品

持参薬鑑別報告書 2/2

患者番号: 999999999 入院日: 2012年06月15日
患者氏名: 約家の 人 作成者: 畠山 祐美子

【薬剤管理指導シート】

手術・検査予定日: 2012/02/20

入院目的 (検査・手術)	心臓バイパス手術 (MIDCAB)	かかりつけ (薬局)	佐久薬業局
入院時診断名	糖尿病 高血圧 心疾患 高脂血症 骨粗しょう症	指導対象	本人
アレルギー歴	ラテックス (+) キウイフルーツで痒くなる。 。経アレルギーでアナフィラキシー (+)。	OTC薬・市販薬等	目薬 (数れ目)
副作用歴	有り ペニシリン系抗生薬で薬疹 (+)	健康食品等	各種777の グルコサミン
入院前 服薬管理	有り	嗜好品等	喫煙 (20 本/日) 飲酒 (2 合/日)
調剤上の工夫	完全分包	伝達事項	
かかりつけ (医療機関)	佐久総合病院 循環器外科		

持参薬鑑別報告書 1/2

患者番号: 999999999 入院日: 2012年06月15日
患者氏名: 約家の 人 作成者: 畠山 祐美子

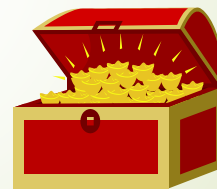
写真	商品名	剤型	チェック欄	用法	用量	日数	説明	備考	コメント	一般名	薬効分類	色・濃度
1	バリアン250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			アロシリン	降血糖薬	白 100
2	ボトム250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			ボトム250mg	降血糖薬	白 100
3	オシロビン250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			オシロビン250mg	降血糖薬	白 100
4	オシロビン250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			オシロビン250mg	降血糖薬	白 100
5	オシロビン250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			オシロビン250mg	降血糖薬	白 100
6	オシロビン250mg	錠剤	180日 1回 1錠	朝食後	4錠	○	○			オシロビン250mg	降血糖薬	白 100

これらをセットにして鑑別結果として提出

入院前から薬剤師が関わるメリット

- 休薬が必要な薬剤を予め止めることができ、予定通り検査や手術が行える（不必要な入院の延期、手術の中止が避けられる）
- 既往歴、合併症の手がかりや患者の薬物治療への理解度、コンプライアンス、アドヒアランスを確認することができる
- 円滑な薬剤管理指導業務へ移行できる

持参薬情報は
患者情報の宝庫



外来院内処方を受け渡し

- 当院は開設時から外来は「原則院外処方で運用」と決まっている。
- 薬剤部の主要な部門（調剤室など）は地下1階にあり、患者さんの動線上にない。

→外来院内処方をお渡しして説明する専用の窓口が設置されていない。

外来院内処方を受け渡し

- 通院治療センターで治療を行う患者さんの院内処方は、原則として通院治療センターでお渡しする（但しサリドマイド、レブリドミド、ポマリドミド→IMiDsは除く）。
- それ以外の処方の多くは持参薬管理室で説明し、お渡しする（1日7件程度）。
- 地下1階の薬剤部で調剤された薬はエアシューターで配送される。

各種薬剤指導

- 外来院内処方の窓口を兼ねているために実施
IMiDs、抗結核薬、吸入薬、
経口のための抗がん剤治療薬（ティーエスワン®、ロンサーフ®、スチバーガ®、アフィニトール®、イブランス®など）（ほか
- 術前薬物療法の説明
自己血貯血時の鉄剤、心臓血管手術前のムピロシン鼻腔用軟膏など

術前薬物療法の関わり

貧血の治療に使用する薬剤について

薬剤師 ()

今回の手術にあたり血液検査を行いました。検査結果より**貧血であることが判明**しました。手術は出血する可能性が高く、**貧血のままだと輸血が必要になる可能性**が高まります。そのため、なるべくそれを避けるために下記の血液（特に赤血球）を造やすお薬を服用して貧血を改善する必要があります。

本日（手術30日前）夜から服用を開始し、手術前日まで服用してください。

入院後も継続して服用していただくため、入院時も持参してください。詳しくは、下記の薬の包装を確認ください。

ご注意ください：お薬の処方された場合、有効期限は本日より4日間ですのでお早めに薬局へお問い合わせください。

商品名：フェルムカプセル100mg

主成分：フマル酸第一鉄 シート記載：フェルムカプセル100mg、100mg、n503

剤形：青色/淡青色のカプセル剤、長径19.4mm、短径6.7mm



この薬の作用と効果について

体内で不足した鉄分を補充し、貧血を改善します。

用法・用量（この薬の使い方）

1日1カプセル（鉄として100mg）を1日1回食前（朝食前）に服用します。

・飲み忘れた場合は、気づいた時にできるだけ早く飲んでください。次に飲む時間が近い場合は、飲み忘れた分は飲み飛ばし、次の飲む時間（1回分）を飲んでください。2回分を一気に飲んではいけません。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。

・妊婦または授乳中の方

生活上の注意

・この薬の服用中に便が黒くなる場合がありますが、吸収されなかった鉄が便中に排泄することによって認められるもので心配はありません。ただし、粘着でタール状の黒い便の場合は、胃・腸などからの出血によって起る場合がありますので、担当の医師または薬剤師に相談してください。

この薬を使ったあと気を付けていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、嘔吐、食欲不振、腹痛（上腹部痛、胃痛、胃不快感、胃重感を含む）、下痢、便秘、心臓部痛、かゆみ、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

1 奈良総合病院救急医療センター入院支援課

禁忌薬剤の電子カルテへの登録

- 持参薬確認の面談時に副作用歴を確認した場合、その薬剤を電子カルテに禁忌薬として登録を行う。
- 各科外来で副作用歴を把握した場合も、外来患者さんは患者サポートセンター内の持参薬管理室に誘導され、持参薬管理室で禁忌薬剤の登録を行う（入院患者は病棟担当薬剤師が対応する）。
- 副作用情報は薬剤部医薬情報室で一元管理される。未知の副作用、重篤な副作用が発生（把握）した場合は製薬メーカーや医薬品医療機器総合機構等への報告を仲介する。

周術期管理シートの作成への関わり/情報共有

- 周術期管理シート ⇒ 術前カンファレンスに用いられるシート
多職種が作成に参加し、術前評価をして問題点を明確にする。
データベース上で意見交換ができる
- 平均月300件の手術のうち200件前後の手術に対し作成
- IN PUTされた情報（持参薬の鑑別情報）からOUT PUTへ
- 原則として午後の担当者が行う

周術期管理シートの作成への関わり/情報共有

インデックスから
手術管理シートを
選択

手術患者管理シートは6頁の構成

1・2頁：術前評価シート
3・4頁：多職種の意見交換
連絡票
5頁：周術期外来などでの麻
酔科診察の結果
6頁：麻酔科医師の診察によ
る術後経過が表示

この部分の作成に関与

周術期管理シートの作成への関わり/情報共有

グリセリン OD0.5mg【経口糖尿病薬】	1錠	1日 1回朝食後	SU剤
フェブリク錠 20mg	1錠	1日 1回朝食後	高尿酸血症治療剤
エタナセ配合錠 1HD【経口糖尿病薬】	2錠	1日 2回朝夕食後	DPP4阻害剤 + ビグアナイド
インスリン注射液 BS注射液【インスリン】	2KT	1日 1回朝5単位	持効型インスリン製剤
エタナセ注射液 2.5mg	1錠	1日 1回朝食後	降圧剤 (ACE阻害剤)
ランソプラゾール錠 15mg	1錠	1日 1回朝食後	消化器用剤 (PPI)
ピソプロロール錠 5mg	1錠	1日 1回朝食後	β遮断薬
ロバスタチン錠 100mg【抗凝固薬】	1錠	1日 1回朝食後	アスピリン
スピロノラクトン錠 25mg	1錠	1日 1回朝食後	スピロノラクトン
フロセミド錠 20mg	2錠	1日 1回朝食後	ループ利尿薬
プラバスタチンNa錠 10mg	1錠	1日 1回朝食後	高脂血症治療剤 (スタチン)
リマプロスト錠 5mg【抗凝固薬】	3錠	1日 3回朝昼夕食後	PGI ₂ 誘導体製剤
メチコバール錠 500mg	3錠	1日 3回朝昼夕食後	メコバロミン
リリカパブセル錠 25mg	2CP	1日 1回寝る前	神経障害性疼痛治療剤

- ◆ 抗血小板薬・抗凝固薬あり→バイアスピリン リマプロスト
- ◆ 2型糖尿病あり。血糖 160、HbA_{1c}(NGSP) 6.9
- ◆ 高血圧にて内服治療中。内服下での普段の血圧は 114/52mmHg
- ◆ 高尿酸血症にて内服治療中。尿酸値は不明
- ◆ 高脂血症にて内服治療中。血清脂質は不明

2017/07/19 宮下

よくある質問とその答え

休薬指導は誰が行っている？ 薬剤師？

- 薬剤師ではありません。
- 休薬の説明、休薬確認は入退院支援室の看護師が行っている。
(但しその指示の元は勿論主治医。)
- 入院や手術、検査に至るまでの流れが何パターンもあるので、
入退院支援室の看護師が最後の砦となる関わりをしている。
- 院内マニュアルにて休薬期間の目安は示しているが、個別の
症例に応じて主治医が判断。
- 薬剤師は正確な持参薬情報の提供に全力を挙げて取り組んでいる
(休薬が必要な薬剤が一目でわかるような工夫は行っている)

サプリメントへの対応は？

- 明確な指標はないが、サプリメントの中には血液をサラサラ
にして、血のめぐりを良くする成分など、周術期に影響を及
ぼす可能性のある成分が含まれるものも見かける。例えば血
小板凝集能に影響を与える成分の場合、易出血の可能性がある
ため、できれば2～3週間休止が必要と思われる。



使用の有無を確認し、品目によっては原則として一旦中止していただく

他の職種と一緒に仕事をするメリットは？

- 専門外の相談（お金のこと、食事のこと、スケジュールの変更希望など）にも速やかに対応可能。たらい回しせずその場で回答を出せる機会が多く、患者ニーズは高いと考える
- 我々も常駐しているため、看護師からが中心だが持参薬鑑別に関すること以外でも薬に関する疑問があれば相談に応じることができる
- 他職種の業務の大変さも理解できる（職員間の相互理解の重要性）

持参薬管理室の新しい業務

- （今までも院内処方のケースでは対応してきたが・・・）
地域がん診療連携拠点病院の指定要件の見直しの中で、本年4月より院内院外処方に関らず、全ての処方麻薬に対する指導が義務付けられた。当院は外来の薬を渡す窓口がないため、持参薬管理室（サポートセンター内）で対応中。1件に要する時間が持参薬の確認よりも多く苦慮している。スタッフが減る中でどうバックアップ体制をとるか検討しているが・・・
- 内服抗がん剤についても同様の要望が出されている。院内院外処方に関わらず、持参薬管理室勤務の薬剤師が一定の説明を行うことを検討中。